

イチゴ種子のマトリックプライミング処理による発芽促進技術

イチゴの種子は発芽するまで2～3週間かかります。

播種前に、少量の水分を種子に与えるマトリックプライミング処理を行うことで、発芽日数（発芽までの時間）が短縮され発芽が早くなります。このプライミング処理種子は、1年以上保存可能です。

この技術により、種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」(右図)において、生産者がセル苗を購入するだけでなく、種子を購入して直接播種する栽培方法に取り組みやすくなります。



図 よつぼしの果実(上)、セル苗(下左)、種子(下右)

マトリックプライミング処理方法

- ①容量 15ml のプラスチック容器に、粒径 250～500 μ m のバーミキュライト粉末 0.3g、種子 0.1g (150 粒)、滅菌水 300 μ l を添加し、上下に振り均一に混合する。
- ②14 日間、25 $^{\circ}$ C、暗黒条件で処理を行い、1 日 1 回容器を振り攪拌する。

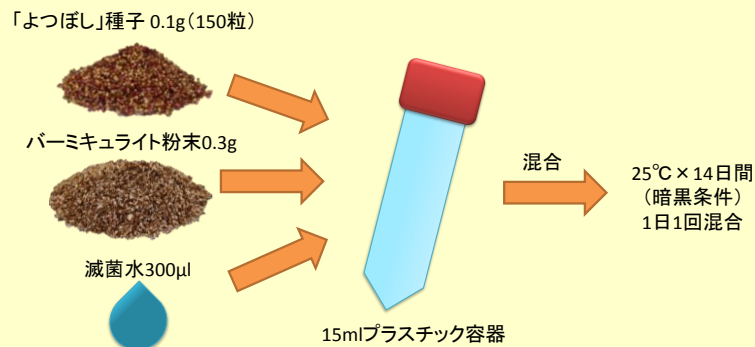


図 マトリックプライミング処理方法

マトリックプライミング処理を行うことで、平均発芽日数（発芽までにかかる日数）が約2日短縮し、発芽が早くなります（下表）。

処理後の種子は、4 $^{\circ}$ Cで乾燥剤と同封のうえ、12ヶ月間保存可能です。

表 マトリックプライミング処理²後の種子保存³期間が発芽に及ぼす影響

		保存期間					
		0ヶ月 ^x	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月
発芽率(%) ^y	処理区	81.7	85.0	95.0	98.3	91.7	88.3
	対照	80.0	-	-	-	88.3	85.0
t検定 ^v		n.s.				n.s.	n.s.
平均発芽日数(日)	処理区	9.0	9.5	8.6	7.7	8.2	9.0
	対照	11.0	-	-	-	13.6	9.9
t検定		*				*	n.s.

² 培地水分100%(w/w), 処理日数14日間の条件 ³ 密封可能なポリエチレン袋に乾燥剤を同封し4 $^{\circ}$ Cで保存

^x 処理直後を0ヶ月とした ^y 播種後21日目の発芽率 ^v *は5%水準で有意差あり、n.s.は5%水準で有意差なし

お問い合わせ先	生産技術研究室 野菜園芸研究課 丹羽千紘 電話 0598-42-6358
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm